

第9期米子市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(素案)に対する意見募集(パブリックコメント)の
意見の概要及び意見に対する市の考え方・対応方針

No	頁	意見の概要	市の考え方(案)
1	18	・男性参加者が集まりやすい場等を増やしてはどうか。	・男性が集まる場のひとつとして、男性を対象に料理の調理実習と健康づくりに役立つ知識を習得できる教室を開催しているところであり、引き続き、各教室等に男性が参加しやすいよう、啓発の方法を工夫したいと考えています。
2	21	・幼少期(学生の時)からのフレイルに対する認識の向上や、フレイル予防アプリの活用促進に向け、フレイル予防啓発のパンフレットを小・中学校へ配布するのはどうか。	・小・中学生を通じたフレイル予防の啓発は、ご家族等幅広い世代にこそ野が広がる可能性もあることから、有効な機会や手法について検討したいと考えています。
3	21	・目標のフレイル度チェック人数やアプリの実施割合の達成に向けた、事業所、各職種など様々な方面や手段からの継続的な啓発をお願いしたい。また、フレイル度チェック後の各種取組の利用の流れをわかりやすくし、直ぐに利用できるようにしてほしい。	・フレイル予防の取組が主体的に行われるよう、引き続き民間事業者と連携し、あらゆる場面を通じて啓発に努めます。また、本市が実施するフレイル予防実践の内容や参加方法については、引き続き分かりやすいフロー図等を示し、行動化を促進したいと考えています。
4	21～25	・フレイル予防は身体機能面へのアプローチに偏らず、バランスの良い取組を実施してほしい。また、フレイル予防の実施にあたっては、新たな取組の実施により、既存の取組の参加者が減るといったことがないよう、「あるもの」「作るもの」「バランス」について考慮が必要である。	・フレイル予防に必要な要素として、「運動」「栄養(口腔)」「社会参加」があり、運動だけでなく、栄養教室の実施や認知機能の向上等、様々な要素を含んだフレイル予防に資する教室等を実施しているところです。今後も、1つの要素に偏ることなくバランスを持った取組を実施するとともに、地域や民間事業者と連携を取りながら、フレイル予防を推進したいと考えています。
5	33	・外出同行・移送サービスは、地域でモデル的に行っているところの現状報告・課題の抽出も含めて取り組む必要がある。	・いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。

No	頁	意見の概要	市の考え方（案）
6	37～38	・認知症に関する啓発と併せ、相談窓口の場所・相談のタイミングについての啓発が必要である。また、介護窓口とのすみ分けなど、窓口の在り方も検討が必要である。	・認知症に関する啓発と併せた相談窓口の場所・相談のタイミングに関する啓発については、認知症ケアパスや市ホームページを活用して取り組んでいるところであり、引き続きこれらの取組を推進していきます。また、個々の認知症の人の状況又は家族等の状況にそれぞれ配慮しつつ総合的に対応するために必要な相談窓口の在り方について、引き続き検討したいと考えています。
7	42～43	・1人暮らし、高齢者等への支援体制の強化が必要であると考える。身元引受人がおられないケースが今後増えていくことが見込まれることを踏まえ、元気な内に後見人等の備えができるような支援体制の構築や、あんしん終活支援ノートが配布で終わることなく活用できるより具体的な支援体制の構築が必要である。	・独居高齢者等の身元保証等に関する取組については、喫緊の課題であると考えており、他自治体の取組状況や支援体制に関する情報収集を行いたいと考えています。また、独居高齢者等のいわゆる「終活支援」について、本市の既存の取組の推進も含めた、より効果的な支援体制の構築に取り組みたいと考えています。
8	46～47	・地域の企業との連携の重要性を踏まえ、計画の実行にあたっては、企業との対話を求めたい。	・地域包括ケアシステムの構築にあたっては、介護人材を安定的に確保するための取組や、介護サービスの質の向上や職員の負担軽減、職場環境の改善などの生産性の向上の推進に取り組んでいくことが不可欠であると考えています。 これらの取組の推進にあたっては、現場の実態を踏まえた効果的な支援策の検討や、事業者等との連携が重要であると考えていることから、計画の実行にあたっては、事業者等との積極的な対話に努めたいと考えています。
9	46～47	・米子市独自の支援対策を含めた、若い人材の育成・養成に向けた既存の専門学校を活かす取組の推進を図ってもらいたい。	・既存の専門学校を活かす取組の推進も含めた、若い人材の育成・養成に向けた取組について、検討したいと考えています。

No	頁	意見の概要	市の考え方（案）
10	50～51	・地域包括支援センターの運営にあたり、地域密着型サービス（特に小規模多機能）を活用したケアマネジメントの必要性を感じている。また、地域包括支援センターにリハ職（特に作業療法士）の配置が必要であると考え。	・いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。
11	51	・計画上に記載されている各地域ケア会議の目的について省略せず、個別ケースの課題分析を行うことによる地域課題の把握についても明確に記載してあった方がよい。	<p>・ご意見を踏まえ、以下のとおり記述を加筆します。</p> <p>P51 2（1）地域ケア会議の推進 （旧）「多職種協働のもと個別ケースの支援内容等を検討し、関係者の課題解決能力の向上や地域包括支援ネットワークの構築などを行うことを目的として・・・」 （新）「多職種協働のもと個別ケースの支援内容等を検討し、関係者の課題解決能力の向上や地域包括支援ネットワークの構築、<u>地域課題の把握</u>を行うことを目的として・・・」</p> <p>P51 2（2）自立支援型地域ケア会議の推進 （旧）「ケアマネジメントに対して多職種からの専門的な助言を得ることで、高齢者の生活行為の課題等を明らかにし、介護予防に資するケアプラン作成とそのケアプランに則したケア等の提供を行うことを目的として・・・」 （新）「ケアマネジメントに対して多職種からの専門的な助言を得ることで、高齢者の生活行為の課題等を明らかにし、介護予防に資するケアプラン作成とそのケアプランに則したケア等の提供や<u>地域課題の把握</u>を行うことを目的として・・・」</p>
12	その他	・食の大切さ等を含めた、健康に対するリテラシーの啓発を推進してほしい。	・本市では、公民館等での「栄養とお口のフレイル予防講座」、「生活習慣病予防調理実習」の開催や、フレイル予防を意識した食に関する冊子を発行する等、普及啓発に取り組んでいるところであり、今後も取組を継続していきます。

No	頁	意見の概要	市の考え方（案）
13	その他	・高齢者に対する各種イベント等の割引を定期的を実施してほしい。	・いただいたご意見は、今後の参考とさせていただきます。